

第2期アクションプラン（2022年度・4年目）

I. 排水管清掃技術向上のための方策 担当：事業部（技術委員会）

各企業が、排水管清掃についての適切な知識を持ち、更なる技術力を向上させ、ビジネスの中で自社の強みや創造性を生かし、より付加価値の高いサービスを提供して、収益性を高めることが重要である。そこで、更なる技術力向上を図れるよう教育体制及び資格制度の確立を目指す

1、技術講習（資格制度）

排水管清掃業の信頼性確立に向け仕様の標準化を推進し、公的機関認定の資格にするべく活動する

	4年目	5年目
プラン	既存及び新規開催地での資格講習の継続を行う。	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	新規の開催要望はなかったが、新年度は愛知会場の確保ができたため開催の検討を行った。また、北海道会場について開催時期を3月にずらす要望があり、来年度の開催に向けて準備を進めることを確認した。	

2、研修会等の開催

法改正や技術革新に伴う新技術に対応するべく研修会を実施する

	4年目	5年目
プラン	前年度の研修会を発展させ関係各所での講習会に積極的に応じる。技術革新に伴う講習会についても企画し実行する。	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	6年ごとの厚生労働省の登録機関の更新手続きを推進し、新規の講師を育成し登録申請を提出した。また、支部の要望を踏まえ新年度に埼玉会場を新設し、熊本会場を隔年から毎年開催とすることを決めた。	

3、人材育成

各地域において排水管清掃技術の指導者となるべき人材を育成するための活動を行う

	4年目	5年目
プラン	現講師・新講師の配置転換等を行い、各講師のスキルアップと欠員時の補填をスムーズに行えるようにする。	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	資格講習の指導レベルを標準化するため、専門員を全会場に参加させることを決めた。	

4、安全衛生

労働安全に対する啓蒙普及を行う

	4年目	5年目
プラン	関係法令の変化に注視し、素材のアップデートを視野に入れる。	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	従事者研修用の動画が完成したため活用方法を検討。具体的な取り組みは広報委員会に移管することを決めた。	

5、技術相談

清掃技術の様々な問題に対応するべく担当者を置き会員の技術上の問題にタイムリーに応える窓口の運営

	4年目	5年目
プラン	相談案件を纏め、会員向けにQ&Aを発行・配信する。	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	相談内容をホームページで公開する検討を行い、広報委員会に打診した。	

6、新たなニーズの調査

排水管の清掃という枠にとらわれることなく、管の清掃という大きなカテゴリの中で社会的なニーズを探る

	4年目	5年目
プラン	施設・ビルの保守に精通した新委員の加入を進め、更なる問題点等を模索し、協会スタンダードを確立する。	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	支部活性化委員会からの要望を受け、建物用途別のマニュアル作成に着手。動画作成を含め資料作りを継続する。	

7、新技術の確立

既存の技術にとらわれることなく新たな技術を模索する

	4年目	5年目
プラン	小口径サイフォン排水システムに対応可能な洗浄方法の実験・検証を進める。	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	ブリヂストン工場を見学し、サイフォン排水システムについて意見交換を行った。 また、化学洗浄技術の検討を新年度に向け行う準備を進めた。	

8、行政機関への働きかけ

	4年目	5年目
プラン	東京都以外の各都道府県の保健所等の講習会へも講師を派遣すべく、支部と共同し積極的に展開する。	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	資格講習の見学会を再開し、行政担当者に案内を送付。参加した担当者に排水管清掃の実態を紹介した。	

Ⅱ. 排水管清掃業の地位向上のための取り組み 担当：管理部（総務・広報委員会）

業界の専門団体として、行政に対して建築物の環境衛生面、労働安全面等に関する提言を行い、業界の地位向上のため会員企業の声を行政の政策に反映し、会員企業が活力ある企業活動を行うための基盤づくりを推進する

1、管清掃業の社会的認知度を高める活動

管清掃業としての必要性を社会的に認知させることにより高い付加価値を創出する

	4年目	5年目
プラン	事業の継続及び進捗フォロー	内容を検証して後の事業活動に生かす
報告	ホームページのレイアウトを変更したほか、最新情報を随時、提供した。	

2、協会のブランディングのための取り組み

会員企業の競合との差別化や調達力の向上を図るべく当協会としてブランディングに取り組む

	4年目	5年目
プラン	前年度の活動を検証しつつ活動継続	活動内容を検証しつつ、結果を継続的なものとする
報告	SDGsのオンラインセミナー開催を企画し、実施した。	

3、社会貢献事業への取り組み

業界として社会的責任を果たすべく積極的に社会貢献事業を推進していく

	4年目	5年目
プラン	社会貢献事業の実施	事業の検証及び評価 次回提言のための準備
報告	SDGsの具体的な取り組みを全管協ニュースに連載し、会員の取り組み意識を高めた。	

4、他業種との交流

他業種の団体と交流していくことで新たな技術の蓄積や事業機会の創出など相乗効果の創出をはかる

	4年目	5年目
プラン	前年までの事業の継続及び進捗フォロー	事業の検証及び評価 次回提言のための準備
報告	業界の活動を広げるため展示会の出展を企画し、出展計画を立案した。	

5、人材確保に対する支援

会員企業の安定した人材確保に対して研究し支援していく

	4年目	5年目
プラン	更なる可能性の検討及び会員企業へのPR	事業の検証
報告	青年世代の取り組み方針を見直し、レクリエーションによる横の連帯づくりのための合同委員会を開催。その場で青年世代に協会の事業活動を紹介して活動への参加を呼びかけた。	

Ⅲ. 組織・運営力の強化 担当：支部統括部（支部活性化委員会）

当協会が強固な組織と財政基盤を築き、会員数を増やすことで業界を代表する団体として発展する

1、組織・財政基盤強化への取り組み

2024年度までに正会員300社を目指す

	4年目	5年目
プラン	入会キャンペーンを通年で実施する。会員数を15社増の270社を285社にする。	入会キャンペーンを通年で実施する。会員数を15社増の270社を285社にする。
報告	入会キャンペーンの取り組みを推進するため条件を変更し、5社が入会した。	

2、会員サービスの充実

ニーズにあった会員サービスの実施や会員相互の親睦を図り協会員の定着率を高める

	4年目	5年目
プラン	定着率、退会者数を理事会に報告を行い検証する。	事業の検証と評価 次回への提言作成
報告	キャンペーン4年間の取り組みで31社が入会し、今年度に初めて1社が退会したため、定着率は97%となった。	

3、情報発信

様々な媒体を通して業界に関する新しい情報を発信する

	4年目	5年目
プラン	評価及び検証	事業の継続
報告	定時総会の際を利用した支部紹介を継続するため、次回の担当支部（東北・北関東、近畿）を決め、その後の担当も決定した。	

4、中期ビジョン推進のための協会組織・執行体制の確立

時代の環境変化に即した柔軟かつ効果的な事業を行えるよう委員会や支部編成のあり方を検討し、機動的な事務局体制の確立を図る

	4年目	5年目
プラン	理事会決定を踏まえた組織・体制の確立準備または修正	新組織に向けた準備
報告	委員会組織を強化するため、各支部からの委員選任を決定。また、技術委員会の強化を図るため技術委員会の態勢整備について提案した。	

5、支部活動の活性化

魅力的で組織的な支部事業を企画立案し水平展開していく

	4年目	5年目
プラン	前年度事業の検証・評価及び継続	前年度事業の検証・評価及び継続
報告	11月29日にSDGsセミナーを開催した。	

IV.委員会活動の活性化

アクションプランの推進と更なる会員のメリットとなる活動の計画と実行を推進していく

技術委員会

	4年目	5年目
プラン	移動委員会を開催し、各支部特有の取り組みや問題点を共に検討する。	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	デモ配管を作成して、ディスプレイの排水状況を実験に基づき検証し、第50回の研究集会で発表した。	

総務委員会

	4年目	5年目
プラン	会員企業の協会に対するニーズについて調査	新たなニーズへの対応策を検討、実施
報告	新入会員アンケートを基にニーズを調査し、来年度の取り組みに向け事業内容を検討した。	

広報委員会

	4年目	5年目
プラン	広報効果について検証	次期アクションプランに向けての検討
報告	ホームページのアクセス解析を行い、訪問者の関心度を分析するとともに会員外への情報提供について協議。	

支部活性化委員会

	4年目	5年目
プラン	4年間の総括で委員会を中心にさらに支部間の連携を深める。	5年間の総括で委員会を中心にさらに支部間の連携を深める。
報告	各支部に見学会情報を提供して、支部幹事会で協議するとともに支部間の活動強化を推進。	

認定委員会(優良事業者)

	4年目	5年目
プラン	取りまとめた意見の検証と評価。	5年間の総括と次期の活動の検討。
報告	新規で3社を認定。来年度に会員向けの資格講習の見学会を再開し、意見の取りまとめを行う。	